

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 7 年 7 月 ～ 9 月実績

令和 7 年 10 月 ～ 12 月見通し

福井県商工会連合会



I. 景況調査の概要

1. 調査目的

この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法

経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区

あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計13商工会
4. 対象企業数

165企業（1地域15企業）
5. 回答企業数

165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間

令和7年7～9月期実績及び令和7年10～12月期見通し
7. 調査時点

令和7年9月1日（月）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（%）
製造業	37	22.4%	37	22.4%	100.0%
建設業	25	15.2%	25	15.2%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

DI（数式）＝（上昇企業数－低下企業数）÷ 回答企業数 × 100

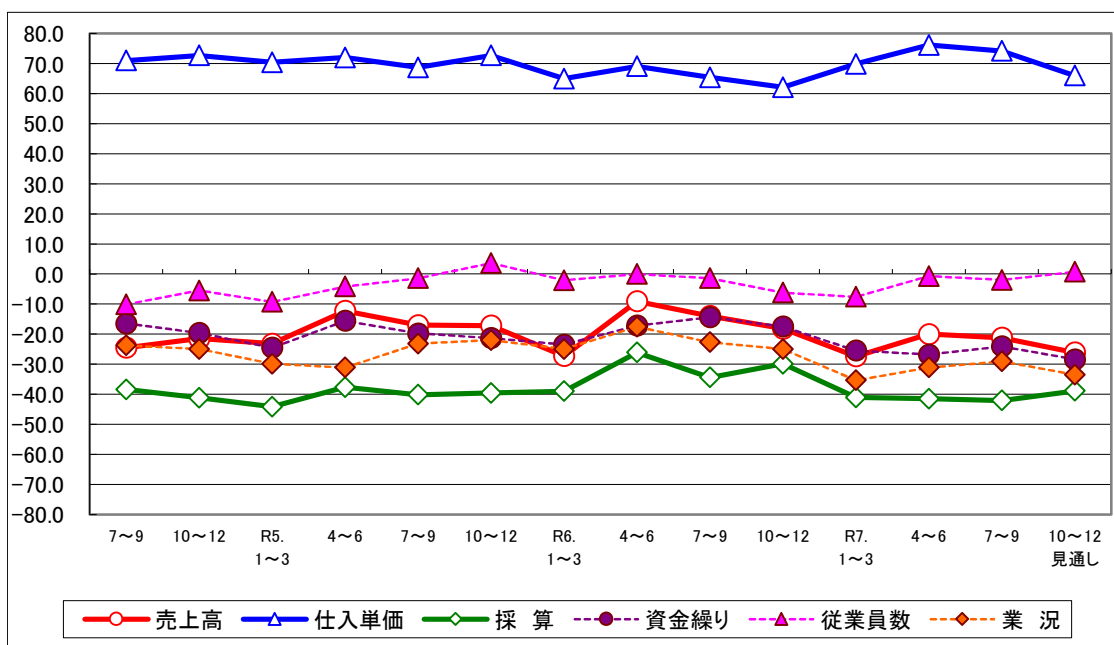
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保 勝 氏

## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

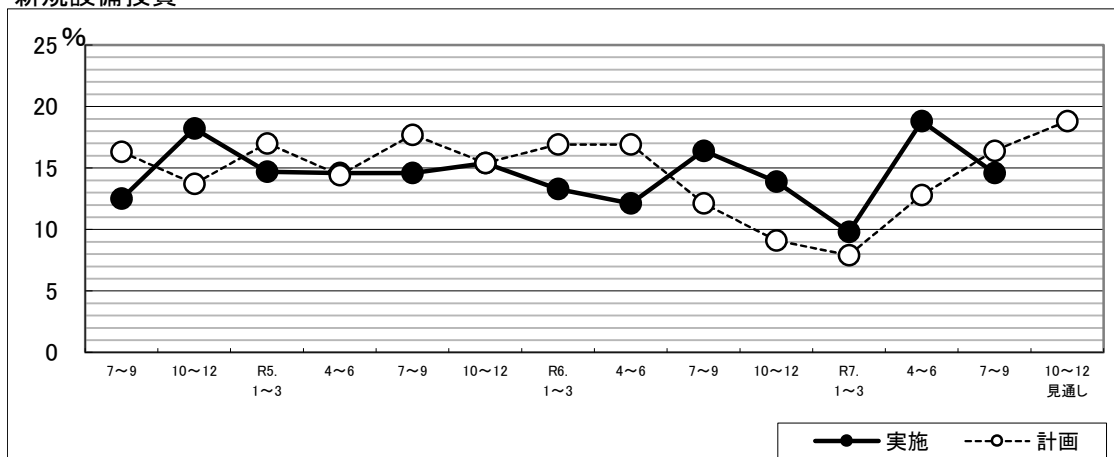
### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
7～9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10～12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1～3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4～6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7～9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10～12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1～3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4～6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7～9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10～12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1～3	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
4～6	▲ 20.0	76.2	▲ 41.5	▲ 26.8	▲ 0.7	▲ 31.1
7～9	▲ 21.2	74.2	▲ 42.1	▲ 24.1	▲ 2.0	▲ 29.1
10～12見通し	▲ 26.1	66.0	▲ 38.9	▲ 28.4	0.7	▲ 33.5

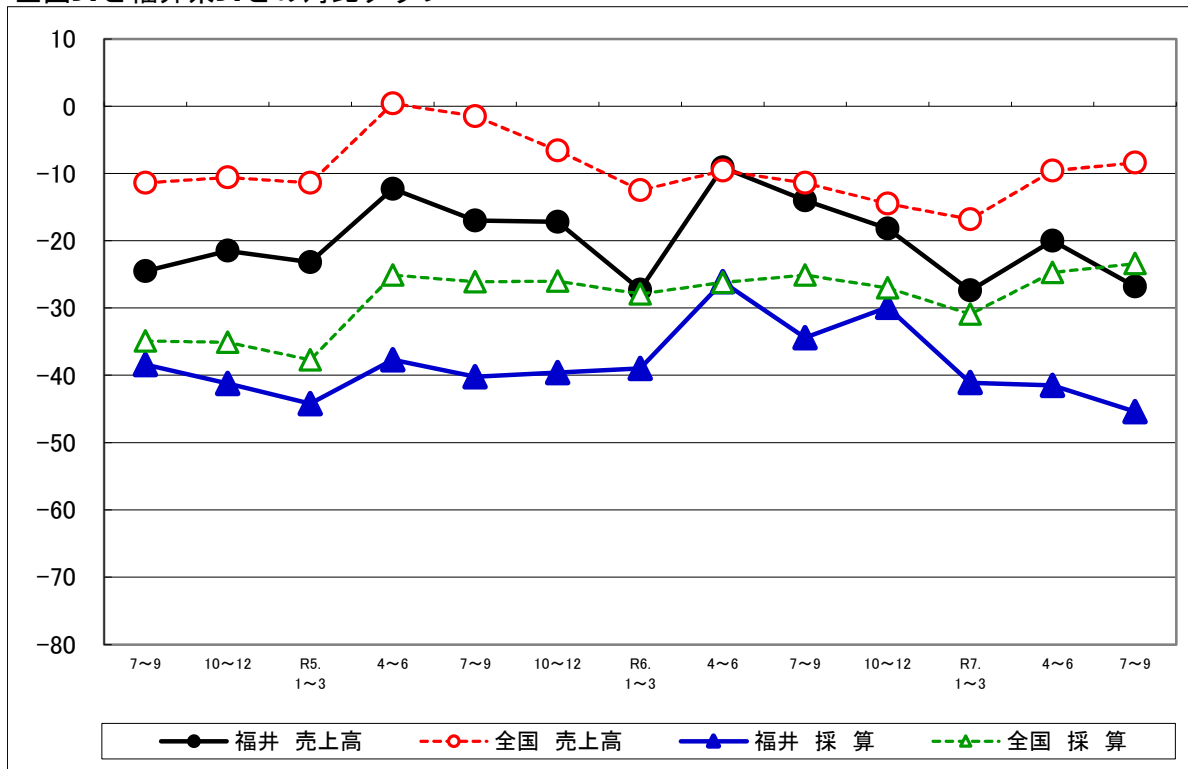
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



## 全体の景況

R7年7～9月期の福井県経済を概観すると、個人消費は一部で新幹線開業効果の反動による観光入込客数の減少や物価高による買い渋りなどの影響がみられるものの、総じてみれば回復しつつある。一方、生産活動は、繊維製品の衣料分野や化学での足踏み、非鉄金属などでの一服感がみられるものの、主力の電子部品・デバイスやプラスチック製品などで持ち直していることから、全体としては持ち直しつつある。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する中、各種の政策効果もあって、緩やかな回復が期待されるものの、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち3項目で改善、3項目で悪化となった。県内企業の景況は業況に改善傾向がみられるものの、売上高の低下や、それに伴う採算悪化などから一進一退の状況が続いている。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲20.0→今期▲21.2、仕入単価（逆指数）が前期76.2→今期74.2、採算が前期▲41.5→今期▲42.1、資金繰りが▲26.8→今期▲24.1、従業員数が前期▲0.7→今期▲2.0、業況が前期▲31.1→今期▲29.1となっている。また、先行き（R7年10～12月期）についても、改善と悪化が同数の3項目となっており、引き続き景況感の大幅改善はなかなか進まないことがうかがえる。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国は売上、採算ともに改善傾向となったが、福井県は両項目共に悪化傾向となっており、引き続き地方圏での業況は厳しい。

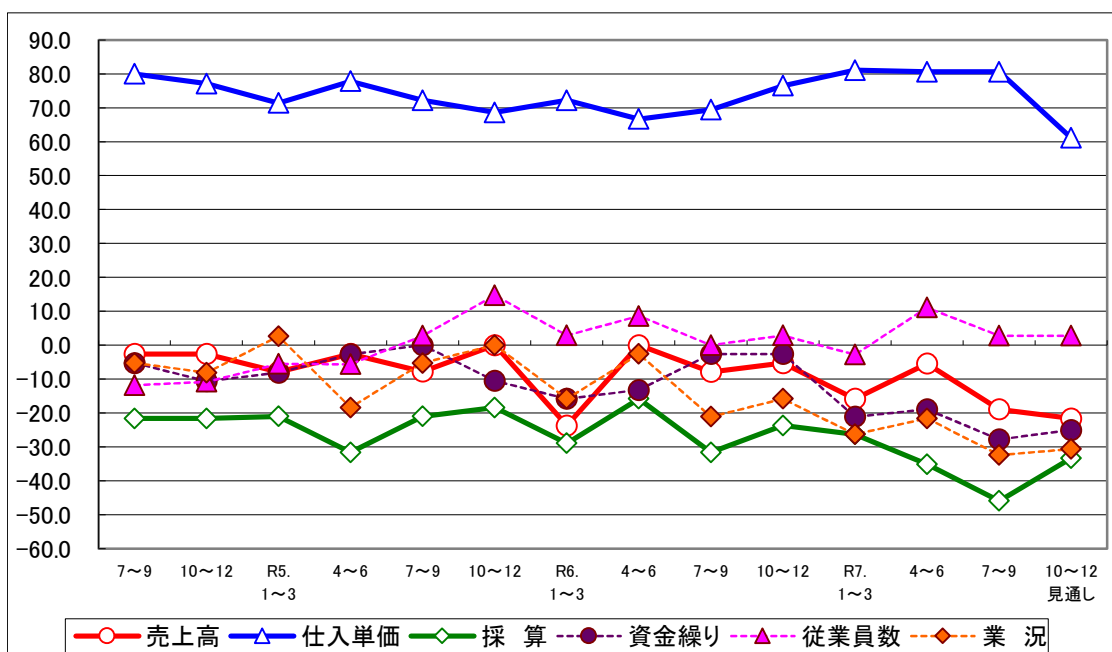
その他、今期の新規設備投資については、計画の16.4%に対し、実施が14.6%にとどまり、やや精彩を欠いた。ただ、来期は持ち直し、18.8%の企業で何らかの設備投資を実行する計画となっている。

## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

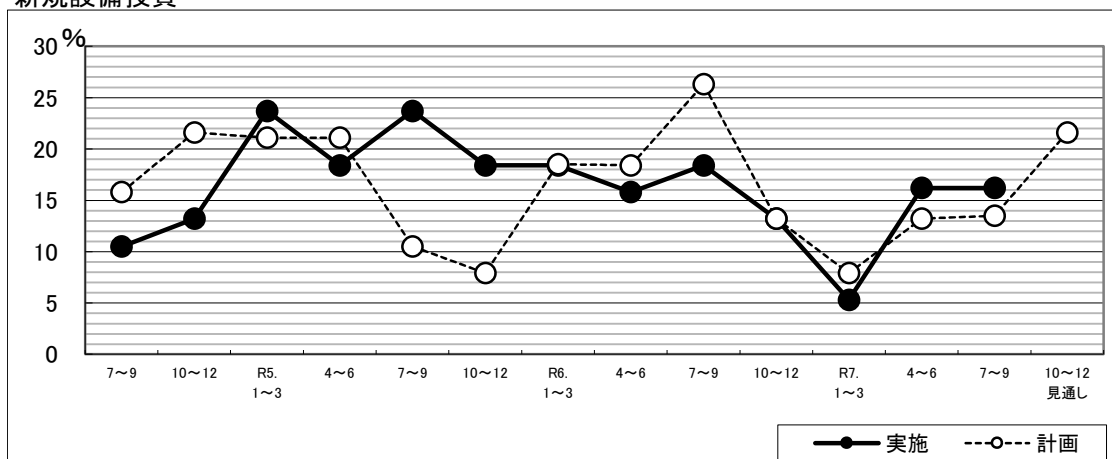
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
7～9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10～12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1～3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4～6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7～9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10～12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1～3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4～6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7～9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10～12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1～3	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
4～6	▲ 5.4	80.6	▲ 35.1	▲ 18.9	11.1	▲ 21.6
7～9	▲ 18.9	80.6	▲ 45.9	▲ 27.8	2.8	▲ 32.4
10～12見通し	▲ 21.6	61.1	▲ 33.3	▲ 25.0	2.8	▲ 30.6

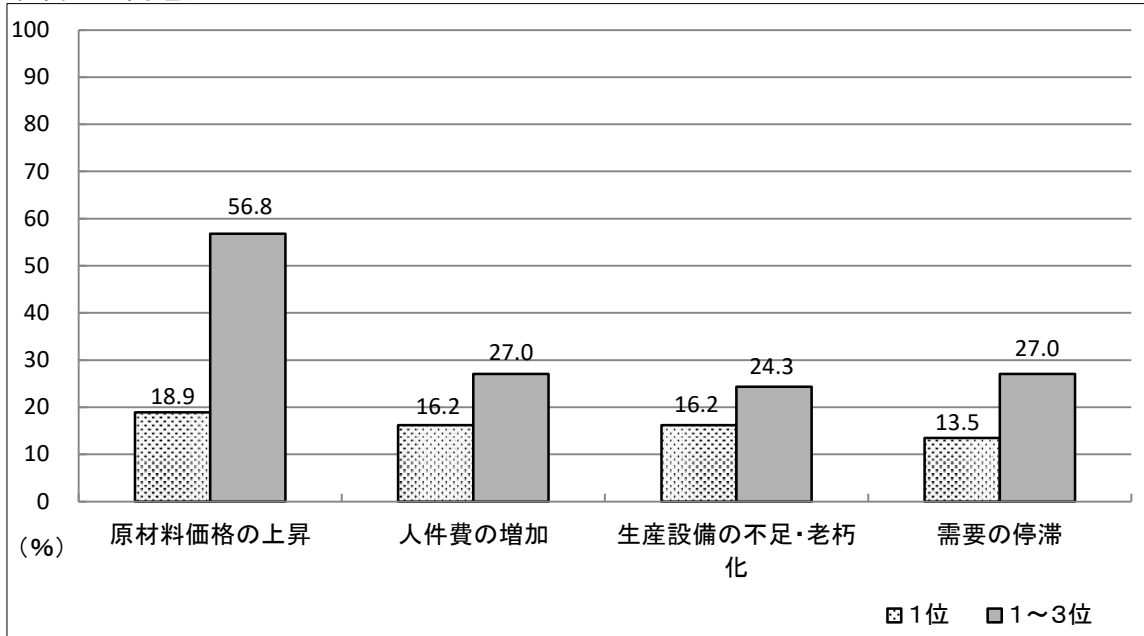
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・昨年3月の北陸新幹線の開業効果は続いているが、今後は福井の売りのコンテンツ（恐竜、いちほまれ、そば等）を更に強化しなければならないと感じます。
- ・主力得意先の業況が好調で、当事業所の当期売上は増収傾向になっている。一方、得意先の顧客は北米市場の動向に左右されやすく、トランプ関税の影響がどの程度およぶかは不透明な状況である。
- ・自社の能力としては、現在の状況でほぼ安定しているものの時代は衛生設備を考えていかないと事業拡大も存続も厳しくなっていくことは避けられないと思います。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維産業では、引き続き非衣料向けが堅調ながら、衣料向けは弱含んでおり、全体では足踏みの状況が続いている。化学産業も合成樹脂の化学製品を中心に弱含んでおり、アルミ圧延などの非鉄金属製品も持ち直しの動きに一服感がみられる。ただ、主力の電子部品・デバイスでスマートフォン需要を中心に持ち直しているほか、プラスチック製品も産業資材分野が復調しており、眼鏡枠なども生産が緩やかに回復していることから、全体としては持ち直しつつある。

こうした中、今期（R7年7～9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、仕入単価の横ばいを除き5項目で悪化傾向となっている。本格化する米国との通商問題やエネルギー価格の上昇、仕入れコストの上昇などを考慮すると、今後さらに厳しさが増すことが懸念される。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲5.4→今期▲18.9、仕入単価（逆指数）が前期80.6→今期80.6、採算が前期▲35.1→今期▲45.9、資金繰りが前期▲18.9→今期▲27.8、従業員数が11.1→2.8、業況が前期▲21.6→今期▲32.4となっている。また、先行き（R7年10～12月期）については、DI値6項目中4項目が改善予想となっており、先行きへの期待感を覗かせている。

一方、新規設備投資の状況については、設備投資を実施した企業が16.2%あり、前期と同水準となった。先行き（R7年10～12月期）については、何らかの投資を予定する企業が21.6%に上昇し、今期以上の投資マインドで推移することが期待できる。

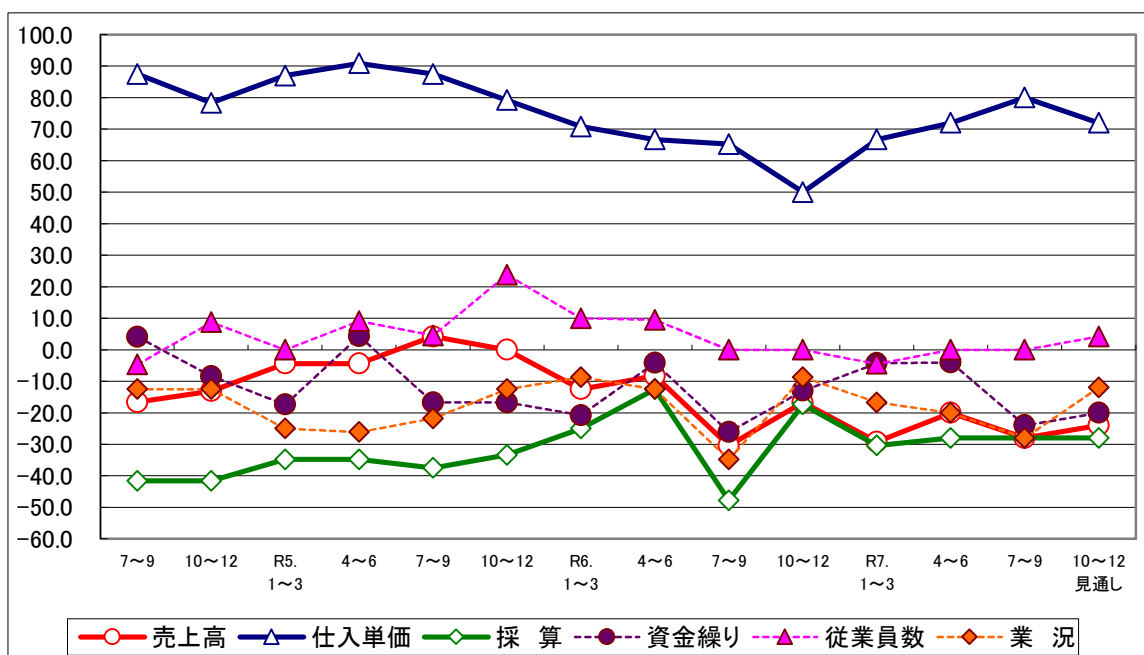
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、18.9%（1位～3位に挙げた企業56.8%）を占めた。その他、「通商問題がどの程度まで影響するか」「今は安定しているが、将来のことを考えると事業拡大が急務」などの、厳しい見方が多かった。

## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

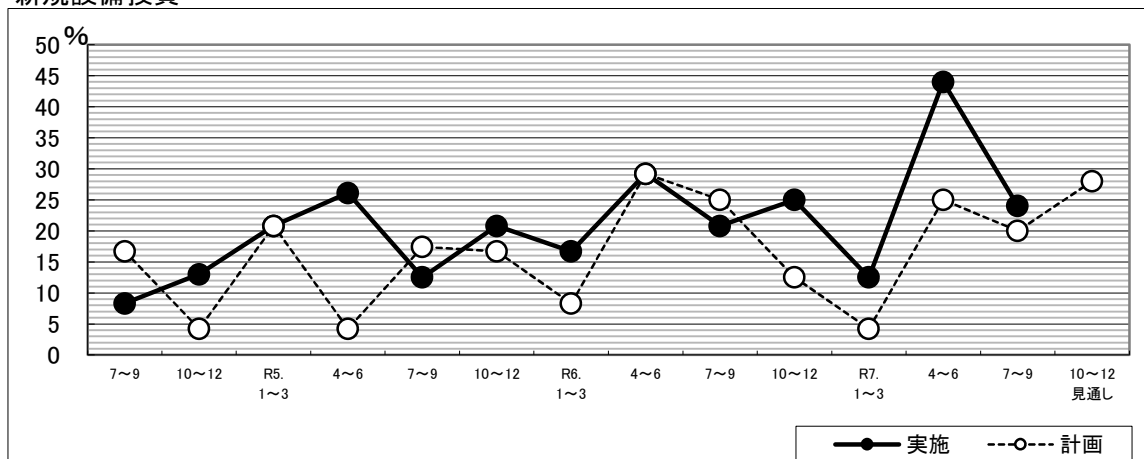
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
7～9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10～12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1～3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4～6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7～9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10～12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1～3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4～6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7～9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10～12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1～3	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
4～6	▲ 20.0	72.0	▲ 28.0	▲ 4.0	0.0	▲ 20.0
7～9	▲ 28.0	80.0	▲ 28.0	▲ 24.0	0.0	▲ 28.0
10～12見通し	▲ 24.0	72.0	▲ 28.0	▲ 20.0	4.2	▲ 12.0

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

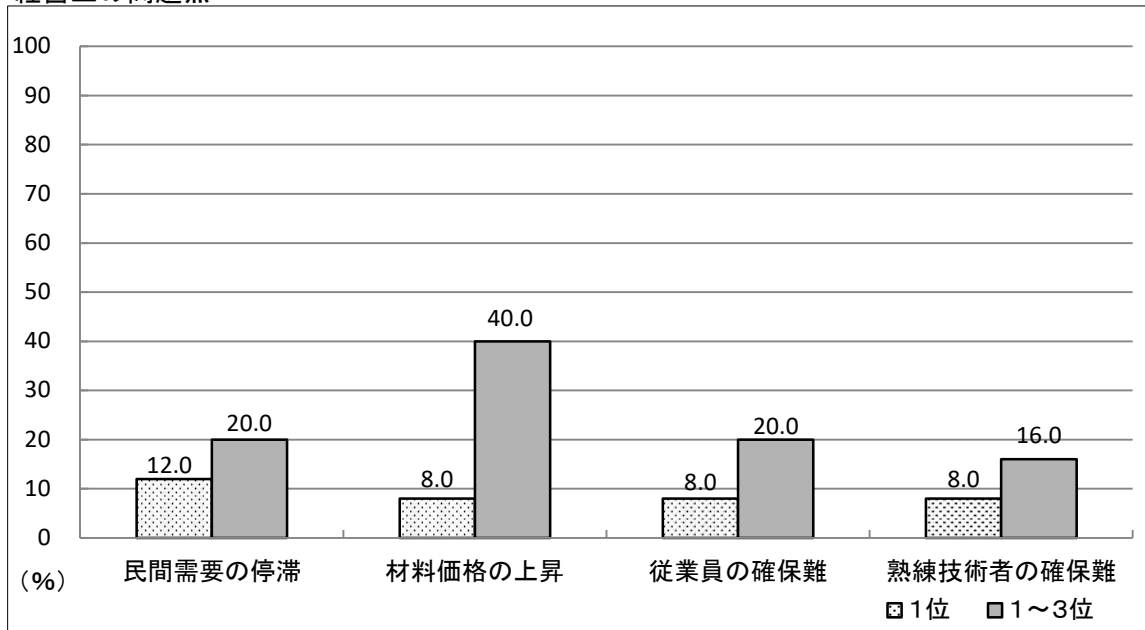


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・公共事業の入札物件数が少なく受注が厳しきになっている。そのため今まで特命で受注していた物件も取り合いになる可能性が高くなっている。
- ・材料費の上昇が続いていて採算性が低下している。官公庁の発注も少なく厳しい状況が続くと思われる。
- ・働き方改革に伴う工事の工程延長により、管理者の人件費増加や現場回転率の低下が目立つ。特に公共建築工事において同業、異業種共に人手不足の要因となっている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR7年4～9月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計981億94百万円の前年同期比0.2%の増加、発注件数では同2014件の同1.8%減となっている。主な発注者別でみると、市町村関連工事が404億67百万円の前年同期比46.1%増となったものの、県関連工事は256億10百万円の同7.5%減であった。そのほか国関連工事は178億15百万円で、同25.6%の減少となっている。

一方、住宅投資については、R7年4～8月の累計で、前年同期比38.0%減の997戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比26.1%減の661戸、貸家が同49.8%減の226戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が見当たらず、前期と同水準となった採算および従業員数以外は悪化傾向を示しており、業界の厳しい状況が見て取れる。各項目別のDI値については、売上高が前期▲20.0→今期▲28.0、仕入単価（逆指数）が前期72.0→今期80.0、採算が前期▲28.0→今期▲28.0、資金繰りが前期▲4.0→今期▲24.0、従業員数が前期0.0→今期0.0、業況が前期▲20.0→今期▲28.0となっている。また、先行き（R7年10～12月期）については、改善予想が5項目となり、やや持ち直すことが期待される。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が24.0%にとどまり、前期（4～6月期：44.0%）を20.0%ポイント下回っている。先行き（R7年10～12月期）については、何らかの投資を予定する企業が28.0%みられ、今期とほぼ横ばいのまま推移することが予想される。

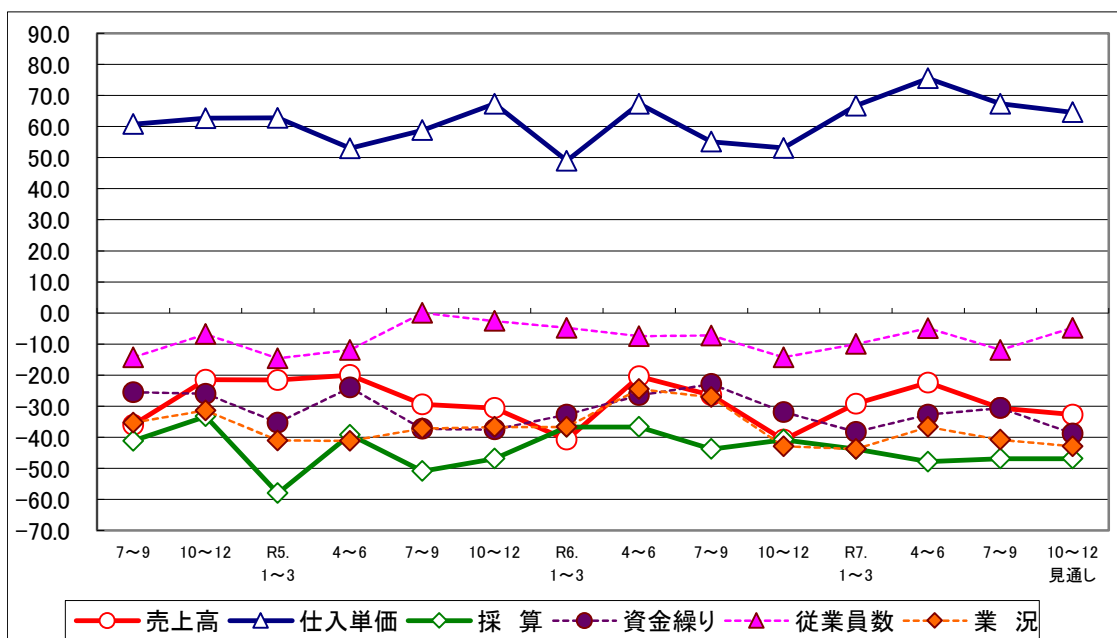
最後に、経営上の問題点については、「民間需要の停滞」が最も多く12.0%（1位～3位に挙げた企業20.0%）を占めた。個別の見解としては、受注の減少、材料費の上昇、働き方改革による人件コスト上昇など、悲観的な見解が目立っている。

## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

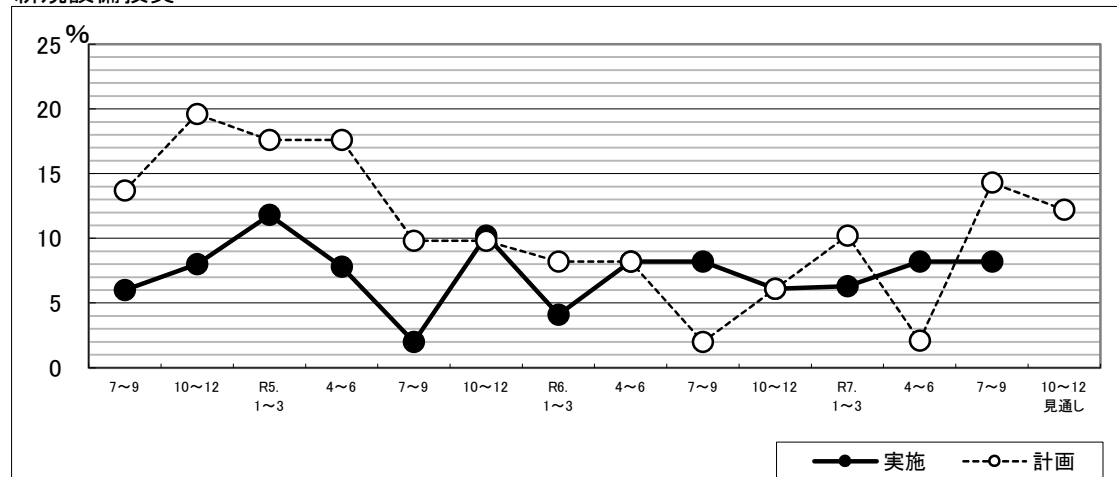
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
7～9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10～12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1～3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4～6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7～9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10～12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1～3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4～6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7～9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10～12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1～3	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
4～6	▲ 22.4	75.5	▲ 47.9	▲ 32.7	▲ 4.9	▲ 36.7
7～9	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 30.6	▲ 11.9	▲ 40.8
10～12見通し	▲ 32.7	64.6	▲ 46.9	▲ 38.8	▲ 4.8	▲ 42.9

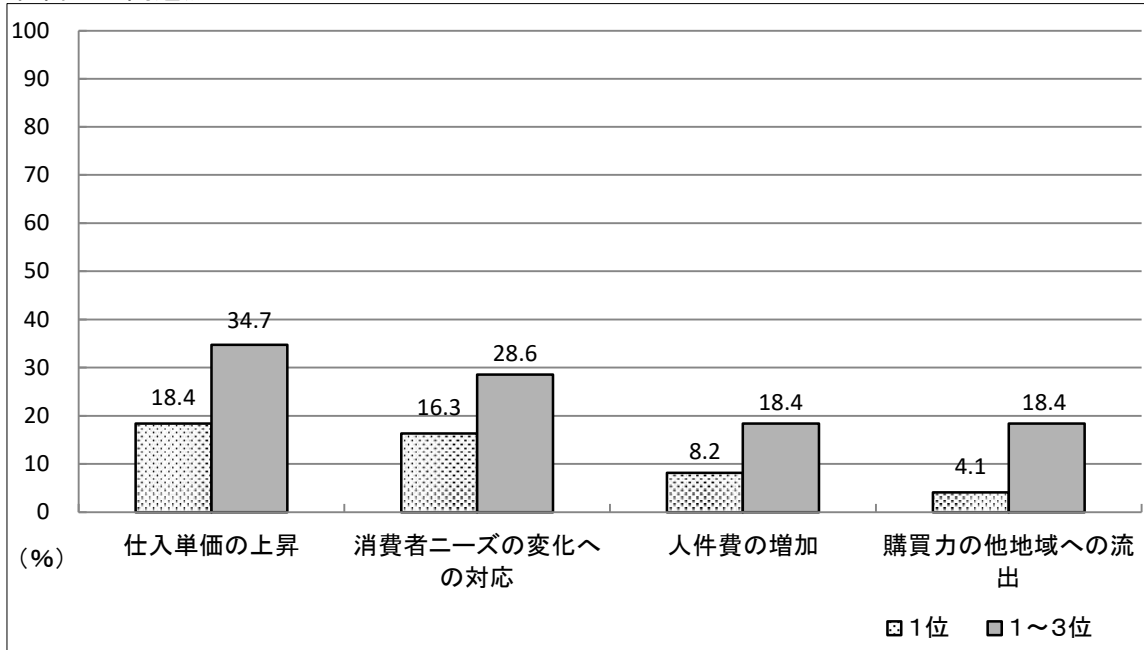
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・利幅（粗利益）が薄くなってきている。近隣のPB店が安売りをしているため、当社も小売価格を下げざるを得ないことが利益率悪化の要因。
- ・綿ふとん離れがすすんでいる。お客さんの買い物が店舗からインターネットに変化してきている。
- ・従前ならこの時期は秋物販売であったが、10月末まで暑さが続く予報。気温の上昇によって、四季（春夏秋冬）が二季（夏冬）になったことで、春物・秋物のビジネスチャンスが消滅した影響が大。

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、一部で北陸新幹線開業効果の需要一巡や、物価高騰による買い渋りなどは残るものの、堅調な賃上げを背景に国内需要の改善が進んでいる。また、多くの店での経営努力が実り、そこそこの売り上げをカバーする店舗も多く、全体では回復しつつある。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR7年8月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、飲食料品、家庭用電気機械器具の伸びに支えられ、前年同月比10.5%上昇し、87億43百万円となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中3項目で改善傾向、3項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲22.4→今期▲30.6、仕入単価（逆指数）が前期75.5→今期67.3、採算が前期▲47.9→今期▲46.9、資金繰りが前期▲32.7→今期▲30.6、従業員数が前期▲4.9→今期▲11.9、業況が前期▲36.7→今期▲40.8となっている。また、先行き（R7年10－12月期）については、6項目中2項目のみの改善予想となっており、引き続き足踏みとなる予想が支配的である。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が8.2%となり、前期（4－6月期：8.2%）と同水準となった。ただ、先行き（R7年10－12月期）については、何らかの投資を予定する企業が12.2%みられ、この先、幾分持ち直すことが予想される。

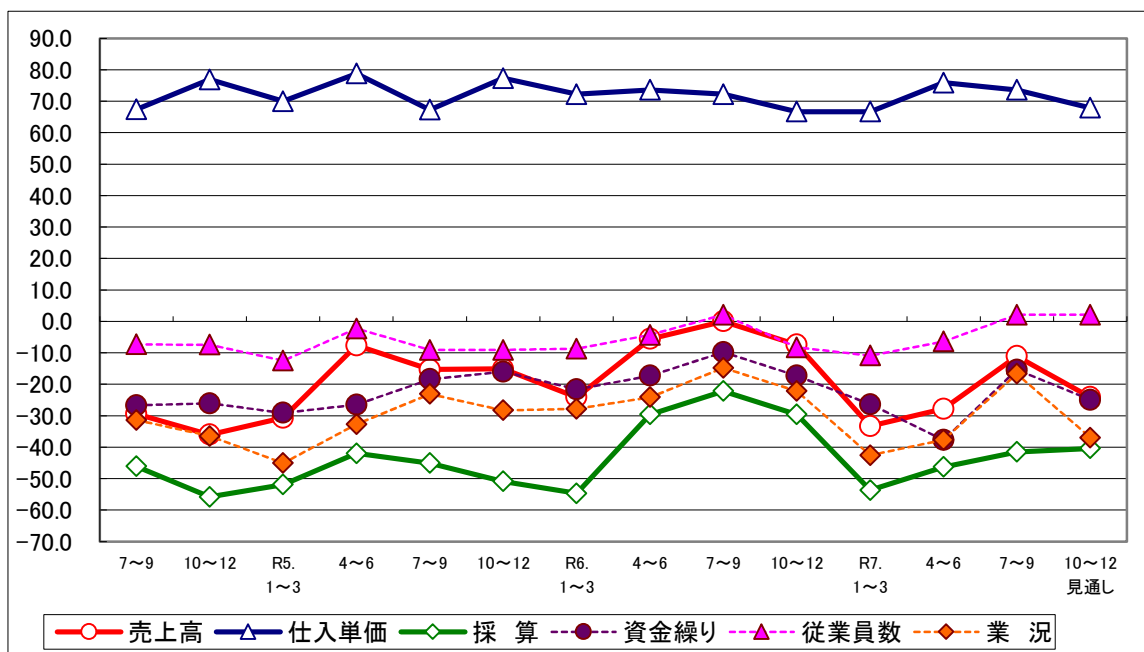
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト18.4%、1位～3位までに挙げた企業34.7%となった。その他の見解としては、「利幅が薄くなってきている」、「異常気象から春物・秋物ビジネスが消滅した」など、先行きへの不安感を訴える声が目立っている。

## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

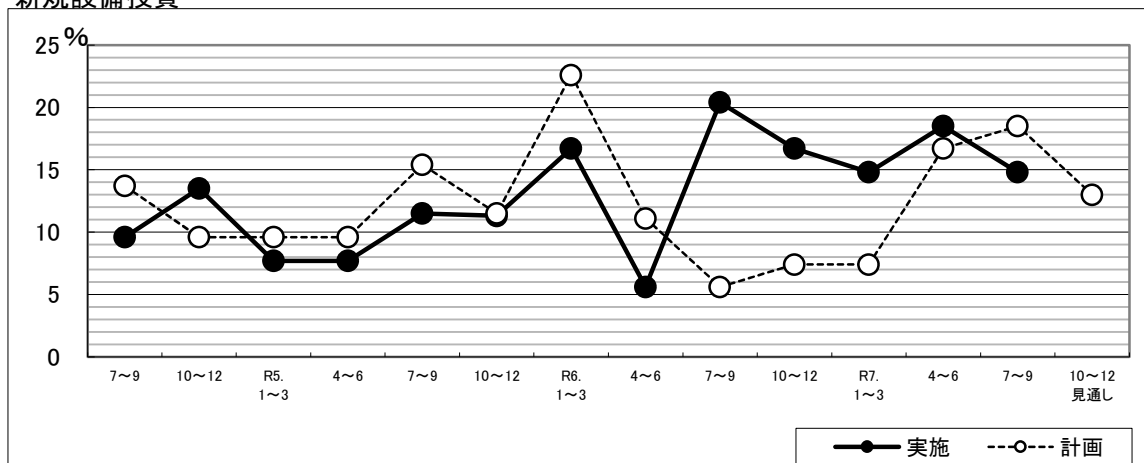
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
7～9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10～12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1～3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4～6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7～9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10～12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1～3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4～6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7～9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10～12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1～3	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6
4～6	▲ 27.8	75.9	▲ 46.3	▲ 37.7	▲ 6.4	▲ 37.7
7～9	▲ 11.1	73.6	▲ 41.5	▲ 15.4	2.1	▲ 16.7
10～12見通し	▲ 24.1	67.9	▲ 40.4	▲ 25.0	2.1	▲ 37.0

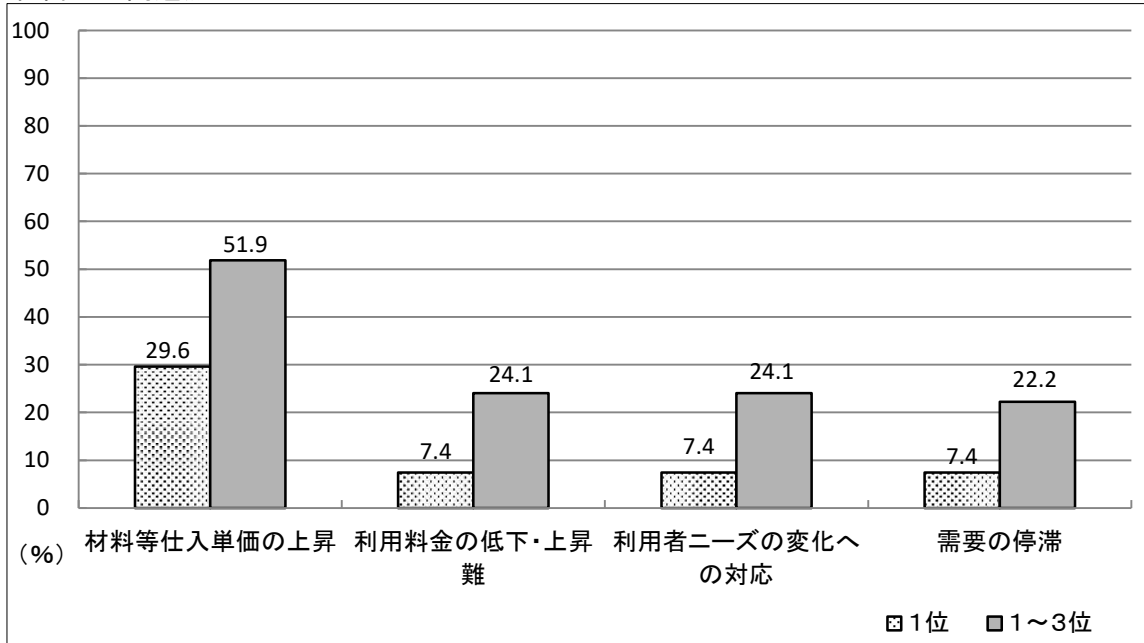
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・自家用車での移動ができない町民の多い地域で、町営バスや鉄道の利用すら困難な方々に対して、なくてはならないサービスがタクシー業だと思っているが、需要は町の補助ありきであり、継続はいつもギリギリである。
- ・周辺に飲食店やイートインスペースが増加したことで客単価が年々下がってきている（そば1皿で足りなかったら別の店に行こう、など）
- ・物価高に続き、最低賃金が年々上昇している。従業員確保も困難なうえに賃金支払いが経営に大きな負担となっている。

## サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値）をみると、2025年8月のサービス産業活動は、「金融業、保険業」、「医療、福祉」などの業種が上昇した一方、「卸売業」、「運輸業、郵便業」などの業種が低下したことから、指数は前月比0.4%低下し、104.3と2か月ぶりの低下となった。ただ、8月時点の基調判断は、「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」に据え置かれた。これまでの第3次産業活動指数の動きをみると、2025年4月、5月は上昇、6月は低下、7月は上昇となったものの、8月は「金融業、保険業」、「医療、福祉」などの業種が上昇した一方、「卸売業」、「運輸業、郵便業」などの業種が低下している。






また、今後の動向としては、物価上昇による取引量への影響などについて、注視する必要がある。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目全てで改善が進んだ。ただ、業界全体としては予断を許さない状況にあるとの見方が支配的である。項目別の指数は、売上高が前期▲27.8→今期▲11.1、仕入単価（逆指数）が前期75.9→今期73.6、採算が前期▲46.3→今期▲41.5、資金繰りが前期▲37.7→今期▲15.4、従業員数が前期▲6.4→今期2.1、業況が前期▲37.7→今期▲16.7となっている。ただ、先行き（R7年10～12月期）については、改善予想は2項目にとどまっている。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が14.8%あり、前期（4～6月期：18.5%）をやや下回っている。また、先行き（R7年10～12月期）については、何らかの投資を予定する企業が13.0%と、その勢いに陰りがみられる。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業29.6%、1位～3位までに挙げた企業51.9%）への指摘が最も多い。個別の見解としては、客単価の低下や人材の確保難、需要の停滞など、厳しい見方が大半を占めている。

全国・福井景気動向 令和7年7月～9月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 8.4	71.4	▲ 23.4	▲ 13.5	▲ 3.9	▲ 17.0
	製造業						
	DI値	▲ 8.0	67.3	▲ 21.9	▲ 15.8	▲ 5.5	▲ 18.8
	建設業						
	DI値	▲ 11.6	74.5	▲ 21.6	▲ 7.4	▲ 4.5	▲ 9.9
	小売業						
	DI値	▲ 17.7	70.3	▲ 29.1	▲ 19.8	▲ 3.7	▲ 28.0
	サービス業						
	DI値	▲ 0.9	73.5	▲ 20.8	▲ 10.2	▲ 1.8	▲ 11.4
福井	全体						
	DI値	▲ 21.2	74.2	▲ 42.1	▲ 24.1	▲ 2.0	▲ 29.1
	製造業						
	DI値	▲ 18.9	80.6	▲ 45.9	▲ 27.8	2.8	▲ 32.4
	建設業						
	DI値	▲ 28.0	80.0	▲ 28.0	▲ 24.0	0.0	▲ 28.0
	小売業						
	DI値	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 30.6	▲ 11.9	▲ 40.8
	サービス業						
	DI値	▲ 11.1	73.6	▲ 41.5	▲ 15.4	2.1	▲ 16.7

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。